

本社調査部門

業務事例

H18 網走開発建設部管内 道路環境センサス
北海道横断自動車道 浦幌町 事業損失防止調査

H17 一般国道39号外 網走管内 環境センサス調査
渚滑古川 道単改修工事(水質調査)

はじめに

近年の環境に対する意識は、CO₂による地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨といった地球環境レベルの問題から、道路交通騒音や振動、水質汚濁等の身近な問題に至るまで、その関心は高まりをみせています。

その中であって、今後の事業活動の在り方としては、良好な環境の保全と創出が求められています。

ここに、当社の業務として環境に係る調査事例を紹介します。

事例

1

自動車騒音の面的評価

騒音規制法第18条に基づく自動車騒音の常時監視は、「騒音に係る環境基準(平成11年4月施行)」の達成状況を把握するもので、自動車騒音公害防止に関する基礎資料として、全国を通して継続的に実施されています。

環境基準の達成状況は、「道路に面する地域の評価」について一定の地域ごとに当該地域内の全ての住居等のうち、環境基準値を超過する戸数および割合を把握することにより評価するものです。

ここでポイントは、従来の「点的」な評価から「面的」な評価へと変更されたことです。

当社は、計画立案からGISシステムへの入力に至る解析、評価結果の活用まで、沿道環境の保全について提案します。



交通騒音測定状況

計画・準備

資料調査

調査

道路調査・沿道調査・騒音調査

GISシステム処理

初期設定

要素設定

道路設定・沿道設定

騒音推計

結果活用

分析・活用、データ管理

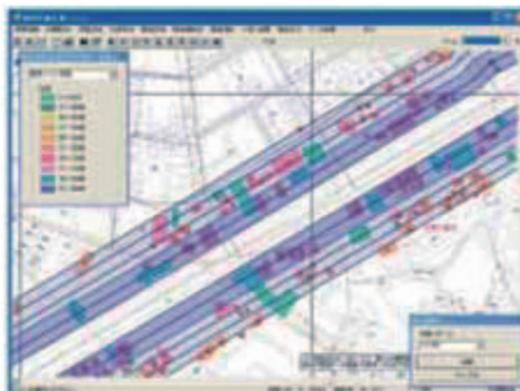
評価結果の活用

自動車騒音常時監視結果報告の作成

環境基準達成状況の把握

道路交通騒音対策の企画・立案

自動車騒音の面的評価 フロー図



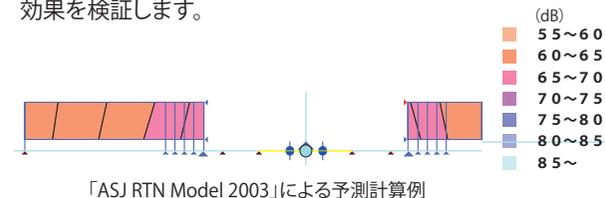
GISシステムによる面的評価例

事例

2

道路交通騒音の予測及び評価

道路事業における交通騒音の予測および評価、ならびに保全対策の検討を行います。また、沿道環境改善に係る整備効果を検証します。



「ASJ RTN Model 2003」による予測計算例

事例

3

沿道環境対策の検証

環境影響の評価において、道路、河川など一定規模を超える事業については、事業実施により周辺の環境に与える影響を調査・予測・評価し、環境保全に必要な措置を講じることを事業者にかけています。

また、経済、社会活動の拡大、生活様式の変化等を背景に、小規模な建設事業による環境問題にも一層厳しい目が向けられるようになってきました。

このような問題への対応として、環境と事業実施の接点の下に、騒音振動、地盤沈下、水質汚濁等の生活環境に著しい影響を与える諸要因について調査検討を行い、多種多様な条件に対応した調査手法を提案します。



搾乳牛への騒音対策として、遮音壁を設置した例